

1. 活動実施主体

本プロジェクトは、2022年7月頃から美波町の5つの漁業協同組合と地元水産関連会社、三井共同建設コンサルタント(株)、および美波町役場が開始した。その後、2023年8月に上記メンバーを構成員とした一般社団法人藻藍部を法人登記した。

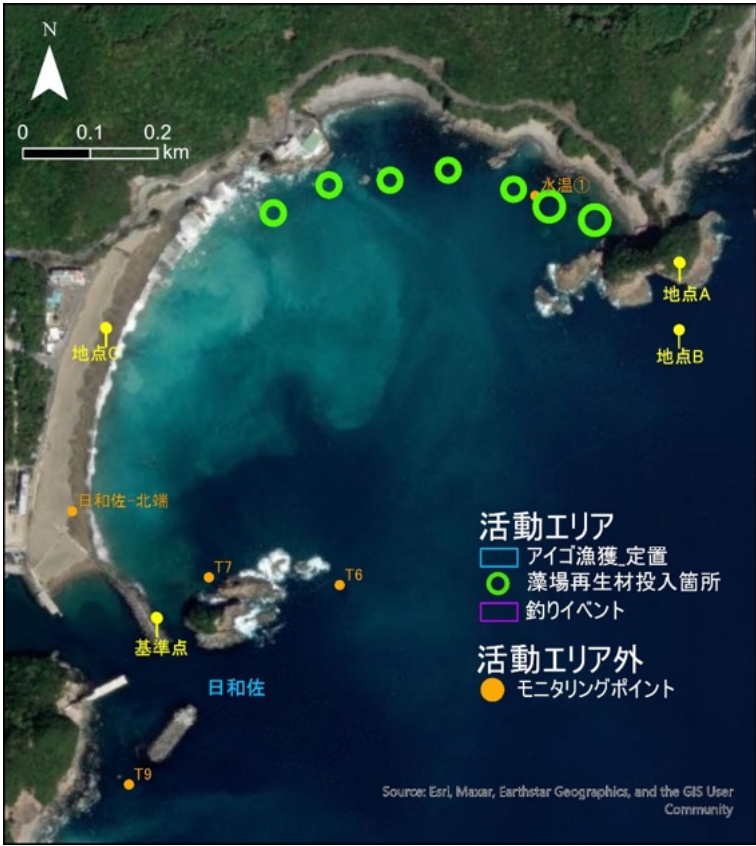
よって、本プロジェクトの活動主体は「一般社団法人藻藍部」、共同申請者は三井共同建設コンサルタント（株）とした。

表1 藻藍部構成員

NO	役 職	所 属 等
1	代表理事（正会員）	日和佐町漁業協同組合組合長(海部上灘委員会会長)
2	理事（正会員）	三井共同建設コンサルタント主任技師
3	〃（正会員）	うみの株式会社代表取締役社長
4	〃（正会員）	株式会社まめぞうデザイン 代表取締役
5	〃（正会員）	阿部漁業協同組合組合長
6	〃（正会員）	由岐漁業協同組合組合長
7	〃（正会員）	木岐協同組合組合長
8	監事（正会員）	弁理士法人豊栖特許事務所
9	正会員	美波町産業振興課課長補佐
10	正会員(設立時社員)	日和佐町漁業協同組合組合（法人として）
11	正会員(設立時社員)	三井共同建設コンサルタント株式会社（法人として）

2. 活動実施場所 ※広域活動範囲は「活動場所、範囲」シートを参照

日和佐港沖、恵比須洞西側湾内の拡大図



3. 活動内容および開始時期

本プロジェクトの開始時期は水産多面的機能発揮対策支援事業の開始時期と同じ**2018年～**である。
認証対象期間（2023/10/25～2024/10/24）内、かつ調査対象範囲付近で行った活動 ※赤字部分

①アイゴの漁獲と加工販売（2022年7月～現在） ⇒詳細は「買取価格制度の効果とアイゴの食用利用および価格変動」シート

- ・美波町を含む徳島県南部地域では、昔から干物などでアイゴを食べる文化があったが、漁獲されても**取引価格は安価**のため、大部分は**水揚げ前に船上で廃棄**されていた。
- ・アイゴを食べる文化を活かしつつ、現代の食ニーズに合わせた食品開発を行うことで、アイゴの流通価値を高める全国初の活動に取り組むこととした。
- ・漁協や漁師、水産加工会社、地元料理店の協力を得て商品化し地場産品として、各種イベントでの販売や、飲食チェーンへの卸売を行った。

②藻場再生材の海底設置（2023年1月～現在） ⇒詳細は「藻場再生材の効果と設置」シート

- ・地元企業と協力し廃菌床などの**地元未利用資源**などを原料とした藻場再生材を開発（2023年1月～）
- ・地元小中高生等と協力し藻場再生材を制作
- ・海底設置時に磯焼け現状やCo2吸収源や生物多様性の場としての藻場重要性に関するワークショップを実施
- ・**藻場再生材の設置（2023年11月、2024年8月）**

③アイゴ漁獲の支援（2024年4月～現在） ⇒詳細は「アイゴの水揚げ最低価格保証補助」シート

- ・美波町役場と協力し、アイゴの漁獲最低価格保証、漁具開発・制作、アイゴ取扱店の販売奨励金といった制度を開始

④アイゴ釣り大会（2023年7月～現在） ⇒詳細は「活動記録」シート

- ・アイゴ釣り文化の定着と情報発信を目的とし徳島県を中心に釣りイベントを告知し実施
- ・第1回（2023年7月）、**釣り連盟主催大会（2023年10月）**、第2回（2023年11月）



しいたけ廃菌床



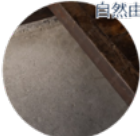
ムラサキウニの殻



酒粕



自然由来の鉄分



三和土（砂利、消石灰、にがり）

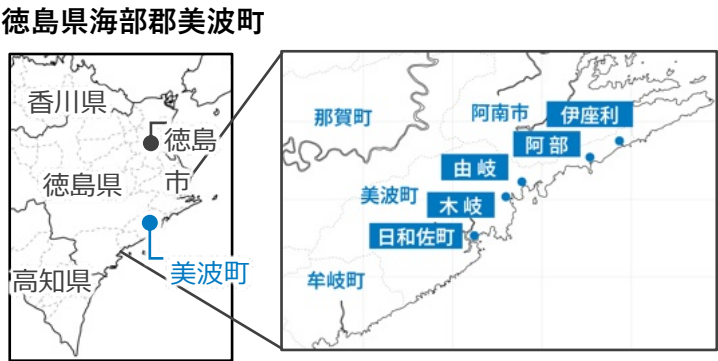


②アイゴ釣り大会

③地元未利用資源を原料とした藻場再生材

③藻場再生材海底設置

位置図



【活動エリア】

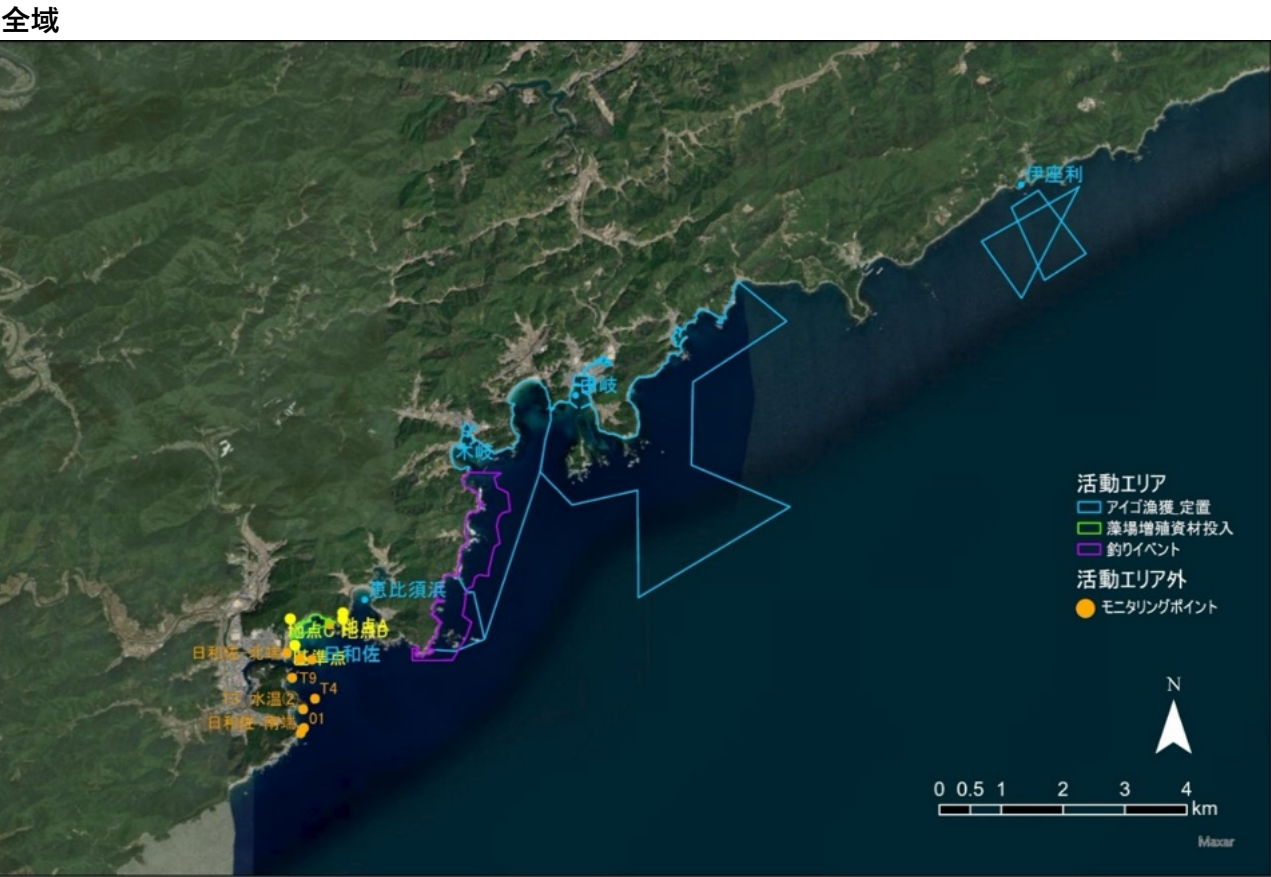
- ①アイゴの漁獲
- ②藻場再生材の海底設置

【活動していないエリア】

水産多面的機能発揮対策支援事業（水産庁補助）
モニタリングポイントT6、T7

活動エリア図

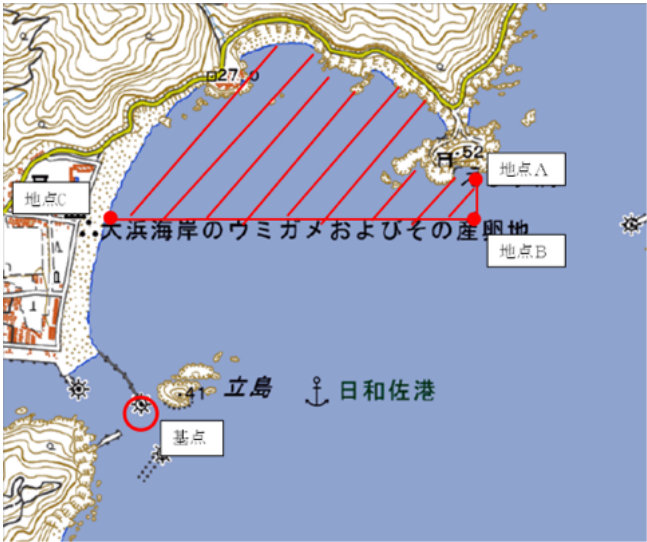
プロジェクト実施区



日和佐港沖、恵比須洞西側湾内の拡大図



藻場調査範囲
















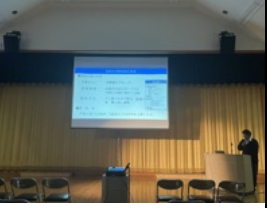






























【藻場被度調査範囲】

資材設置活動エリア 地点A～C及びその北側の海岸線を結んだ範囲内

地点	適用	緯度	経度
基点	日和佐港北防波堤灯台	33.73068	134.5427
地点A	基点から方向角55° 45' 距離935m	33.73542	134.5510
地点B	基点から方向角61° 07' 距離883m	33.73453	134.5510
地点C	基点から方向角349° 44' 距離433m	33.73452	134.5418

赤字：認証対象期間（2023/10/25～2024/10/24）内、かつ活動藻場調査エリアである日和佐地区付近の海域で実施した活動

活動名および活動内容・期間			活動状況写真						
①	アイゴの漁獲と加工販売 2022年～現在、随時	アイゴ料理試食会 2022/7/26	アイゴ仕入・加工 2022/8/3	アイゴ水揚げ 2022/12/12		アイゴ加工品試食会 2023/1/16 ミナミマリンラボ(美波町)		美波夜市 2023/2/18 道の駅日和佐(美波町)	宮の市 2023/5/5 日和佐八幡神社(美波町)
									
		とくしまマルシェ 2023/5/28 徳島市しんまちボードウォーク	ジャパンインターナショナルシーフードショー 2023/08/23-25 東京ビッグサイト		美波夜市(城前夜市) 2023/9/16 日和佐駅、日和佐漁港(美波町)	阿波our spirits 2023/11/07-08 六本木ヒルズイベント広場(東京都)	宮の市 2023/11/19 日和佐八幡神社(美波町)	道の駅いたのブース出展 2023/12/17 道の駅いたの(板野町)	磯克漁民シンポジウム 2024/01/12-13 志摩市商工会館多目的ホール(三重県)
									
②	藻場再生材の海底設置 2022年～現在	資材開発（室内実験） 2023/1/10～現在	資材制作・ワークショップ 2023/10/23～24	子供向け海底設置イベント 2023/11/3～/4		子供向け海底設置イベント 2024/8/2		海底設置 2024/12/17	
		・地元企業と協力し廃園床などの地元未利用資源などを原料とした藻場再生材を開発（2023年1月～） ・地元小中高生等と協力し藻場再生材を制作 ・海底設置時に磯焼け現状やCo2吸収源や生物多様性の場としての藻場重要性に関するワークショップを実施 ・藻場再生材の設置（2023年11月、2024年8月）							
		資材開発（室内実験） 2023/1/10～現在 素材、溶解に適した形状、海洋への影響について研究							
									
③	アイゴ漁獲の支援 2024年4月～現在	報道資料 2024/8/11							
									
④	アイゴ釣り大会 2023年～現在、計3回 アイゴ釣り文化の定着と情報発信を目的とし徳島県を中心に釣りイベントを告知し実施	第1回釣り大会 2023/7/17	釣り連盟主催釣り大会 2023/10/21～22		第2回釣り大会 2023/11/18				
									

活動① アイゴの漁獲と加工販売（2022年7月～現在）

- ・ 美波町を含む徳島県南部地域では、昔から干物などでアイゴを食べる文化があったが、漁獲されても取引価格は安価のため、大部分は水揚げ前に船上で廃棄されていた。
- ・ アイゴを食べる文化を活かしつつ、現代の食ニーズに合わせた食品開発を行うことで、アイゴの流通価値を高める全国初の活動に取り組むこととした。
- ・ 漁協や漁師、水産加工会社、地元料理店の協力を得て商品化し地場産品として、各種イベントでの販売や、飲食チェーンへの卸売を行った。

1. アイゴの漁獲量および市場売買単価の推移

- ・ アイゴの漁獲量と市場単価のデータは徳島県水産研究所の「アイゴ漁獲量データ」を採用した。
- ・ 「アイゴ漁獲量データ」は、水産研究所が美波町内の3漁協（木岐漁協、由岐漁協、伊座利漁協）から漁獲量および売買情報を収集したものである。
- ・ なお、本データは価格保証制度で価格補填される量も含まれている。

表1 徳島県水産研究所 アイゴ漁獲量データ

漁獲量kg	項目	適用	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
単月	2021年		226.7	127.4	31.2	200.8	275.9	18.5	112.2	131.8	10.5	115.2	3,860.7	1,221.1	6,332.0
	2022年		35.8	126.0	182.5	365.0	116.1	146.5	716.3	235.6	36.0	35.0	1,432.0	554.0	3,980.8
	2023年		97.5	67.8	50.0	257.0	53.0	31.0	44.5	3.3	2.0	51.6	740.8	818.8	2,217.3
	①平年値	2021～23年単月平均	120.0	107.1	87.9	274.3	148.3	65.3	291.0	123.6	16.2	67.3	2,011.2	864.6	4,176.7
	2024年	買取制度開始年	206.0	231.7	218.6	505.4	88.6	—	1,153.7	183.5	59.7	30.1	1,343.2	2,176.6	6,197.1
	②買取制度の実績	2024年4月開始	—	—	—	61.5	5.2	0.0	815.7	161.0	45.2	7.8	21.3	2,171.8	3,289.5
	③買取制度利用率	②÷2024年	—	—	—	12.17%	5.87%	—	70.70%	87.74%	75.71%	25.91%	1.59%	99.78%	

表2 徳島県水産研究所 アイゴ売買単価データ

単価 (円/kg)	項目	適用および備考	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
単月	2014年		30.0	0.0	30.0	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	25.0	10.7
	2015年		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	4.2
	2016年		0.0	50.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.0	23.0	23.0	11.9
	2017年		32.0	33.0	55.0	43.0	26.0	0.0	0.0	30.0	21.0	18.0	50.0	32.0	28.3
	2018年		29.0	21.0	37.0	33.0	28.0	13.0	0.0	0.0	10.0	31.0	30.0	30.0	21.8
	2019年		23.0	19.0	34.0	22.0	36.0	0.0	62.0	0.0	23.0	14.0	45.0	43.0	26.8
	2020年		18.0	14.0	26.0	31.0	19.0	0.0	47.0	0.0	21.0	49.0	41.0	12.0	23.2
	2021年		11.5	9.6	11.5	10.1	8.9	18.6	45.9	32.2	30.0	17.1	16.4	10.7	18.5
	2022年	加工品開発開始	21.3	20.7	14.3	11.6	14.3	13.8	10.3	11.2	23.3	26.8	15.6	6.7	15.8
	①平年値	2014～22年単月平均	18.3	18.6	23.1	19.0	16.1	5.1	18.4	8.2	14.3	20.3	27.9	25.8	17.9
	2023年	販売イベント等開始	19.6	68.3	97.0	55.6	48.9	15.4	66.5	10.0	100.0	30.4	32.7	19.9	47.0
	2024年	買取制度開始	22.9	20.0	20.0	18.8	19.4	—	27.7	15.1	59.6	83.1	25.4	170.2	43.8

2. 買取制度前後のアイゴ漁獲量推移

- ・ 漁獲量の自然増減の影響を軽減するため、2021年から2023年までの3か年月別漁獲量平均値（以下、平年値）を求めた。表1の①
- ・ 平年値と2024年の累積漁獲量を4月～12月の間で比較したところ、**平年値よりも2024年の累積漁獲量が上回る結果**となった。図1、図2
- ・ 平年値に買取制度の買い取り実績量を加算したところ、概ね2024年の漁獲量と同程度となり、**買取制度開始により漁獲量が増えた**ことが明らかとなった。図2
- ・ 既存流通網である仲買の取扱量も増えた。（買取価格保証制度の利用率の低い10月11月でも漁獲量が増えている。） 表1、図1

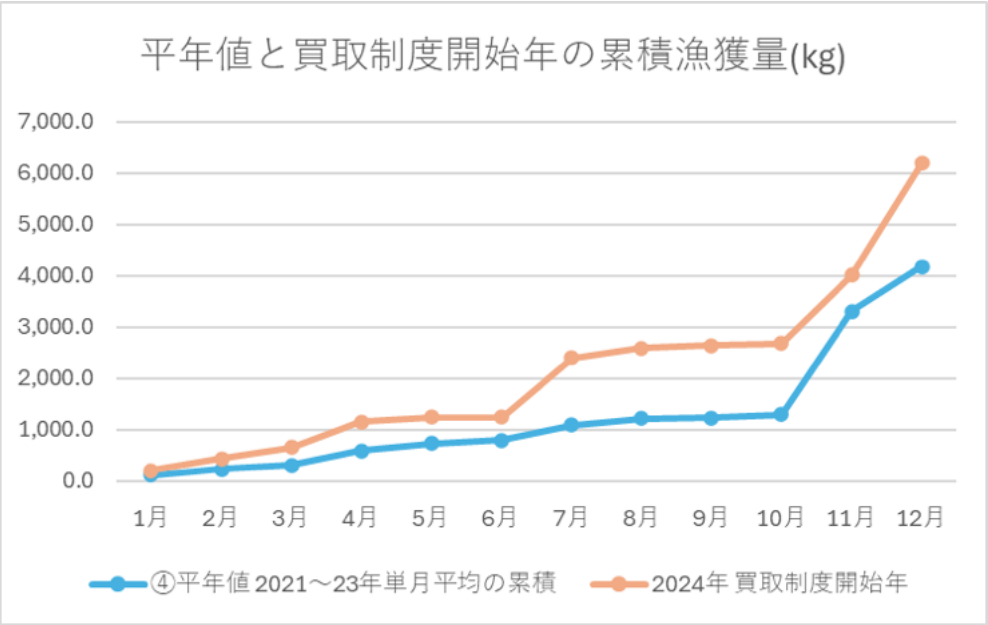


図1 アイゴ漁獲量データの累積値推移

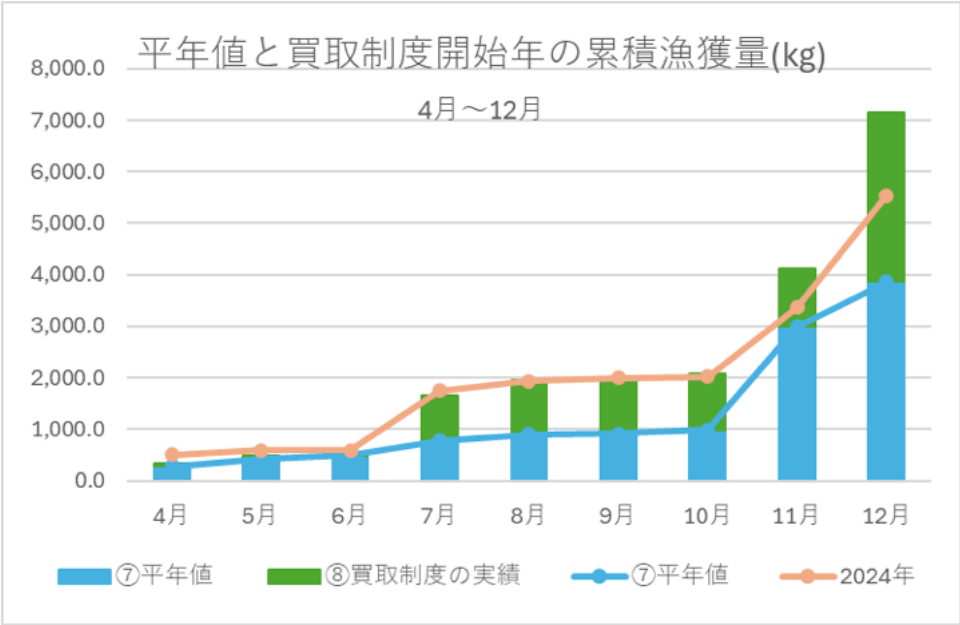


図2 アイゴ漁獲量データの累積値推移(4～9月)

表3 徳島県水産研究所 アイゴ漁獲量データの累積値

漁獲量kg	項目	適用	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
累積	2021年	先月+ 当月	226.7	354.1	385.3	586.1	862.0	880.5	992.7	1,124.5	1,135.0	1,250.2	5,110.9	6,332.0	
	2022年	〃	35.8	161.8	344.3	709.3	825.4	971.9	1,688.2	1,923.8	1,959.8	1,994.8	3,426.8	3,980.8	
	2023年	〃	97.5	165.3	215.3	472.3	525.3	556.3	600.8	604.1	606.1	657.7	1,398.5	2,217.3	
	④平年値	2021～23年単月平均の累	120.0	227.1	315.0	589.2	737.6	802.9	1,093.9	1,217.5	1,233.6	1,300.9	3,312.1	4,176.7	
	2024年	買取制度開始年	206.0	437.7	656.3	1,161.7	1,250.3	1,250.3	2,404.0	2,587.5	2,647.2	2,677.3	4,020.5	6,197.1	
	⑤買取制度の実績	2024年4月開始	—	—	—	61.5	66.7	66.7	882.4	1,043.4	1,088.6	1,096.4	1,117.7	3,289.5	
	⑥買取制度の効果	④+ ⑤	—	—	—	650.7	804.3	869.6	1,976.3	2,260.9	2,322.2	2,397.3	4,429.8	7,466.2	

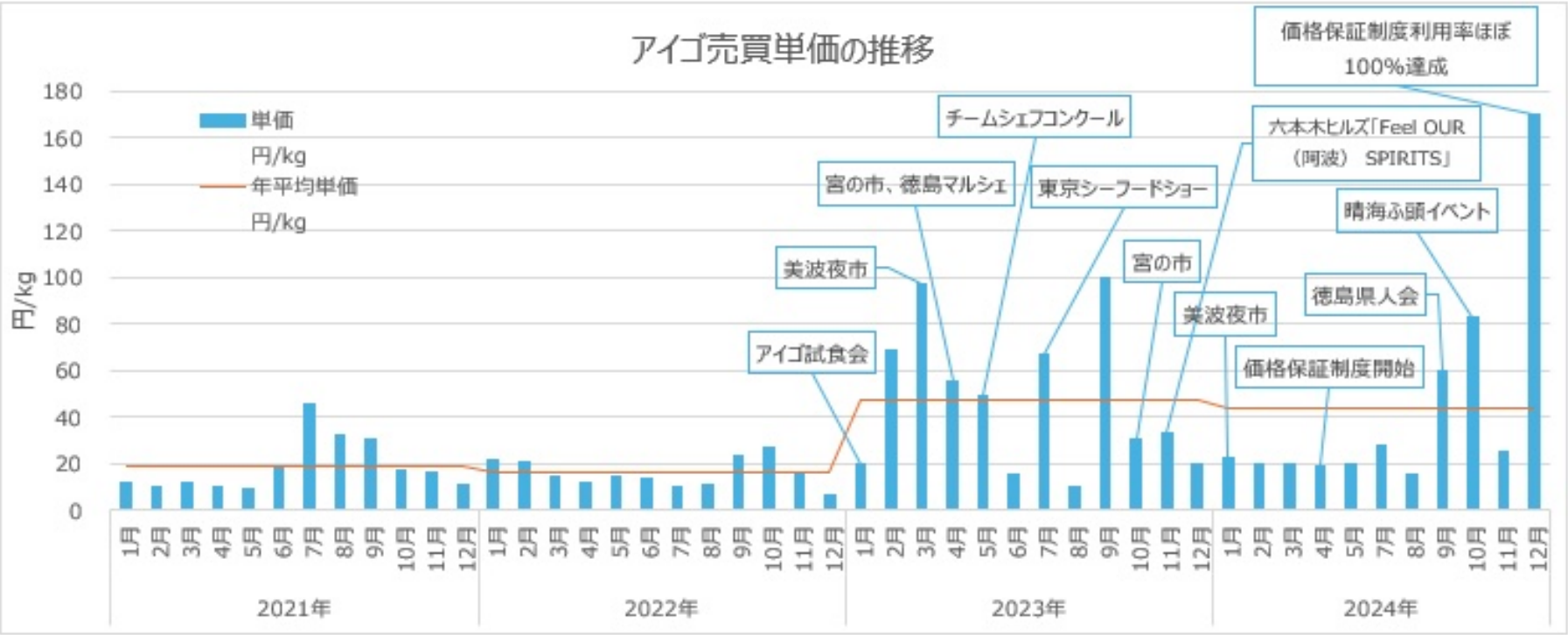
4月からの累積漁獲量kg		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
⑦平年値	〃	274.3	422.6	487.9	778.9	902.5	918.7	985.9	2,997.1	3,861.7
2024年	9か月累積、先月+ 当月	505.4	594.0	594.0	1,747.7	1,931.2	1,990.9	2,021.0	3,364.2	5,540.8
⑧買取制度の実績	2024年4月開始	61.5	66.7	66.7	882.4	1,043.4	1,088.6	1,096.4	1,117.7	3,289.5
⑨買取制度の効果	⑦+ ⑧	335.8	489.3	554.6	1,661.3	1,945.9	2,007.3	2,082.3	4,114.8	7,151.2

3. アイゴの食用利用率および価格変動

- ・ 徳島県南部地域は伝統的にアイゴを食用する文化があったため、漁獲されるアイゴは全て地元での食用とされていた。

- ・ 「アイゴ漁獲量データ」は、美波町内の3漁協（木岐漁協、由岐漁協、伊座利漁協）が漁獲し販売した情報を、水産研究所が収集しデータ化したものである。
- ・ よって、アイゴ漁獲量に対する**食用利用率は100%**である。
- ・ 一方、売買単価は年平均20円程度で取引されていたが、2023年からアイゴ商品開発やイベント販売を開始し、**売買単価は約2倍**の年平均40円程度で推移している 図3
- ・ 本活動を通して、**アイゴの市場価値が向上**したことが明らかとなった。

図3 アイゴ売買単価の月平均値および年平均値の推移



活動③ 藻場再生材の海底設置（2023年1月～現在）

- ・ 磯焼けの一因として栄養塩不足が指摘※1されており、藻場成長には窒素、リン、鉄が必要とされている。
そこで、本活動開始にあたり、日和佐港沖にある恵比須洞西側湾内の海洋水質調査結果を行った。 図1
- ・ 水質調査結果St.1とレッドフィールド比(C：N：P：Fe=106：16：1：0.005（モル比）)※1を比較した。 表1
当該海域において主に**窒素分が不足**していることが分かった。 表1
- ・ 窒素分、鉄分を含む藻場再生材を開発し、藻場再生エリアである恵比須洞西側湾内に設置することとした。

※1 磯焼け対策における施肥に関する技術資料 平成 27 年 3 月 水産庁漁港漁場整備部
https://www.ifa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_zyoho_bako/attach/pdf/mobahozen_sozo_isoyaketaisaku-1.pdf

図 1 恵比須洞西側湾内の調査地点図

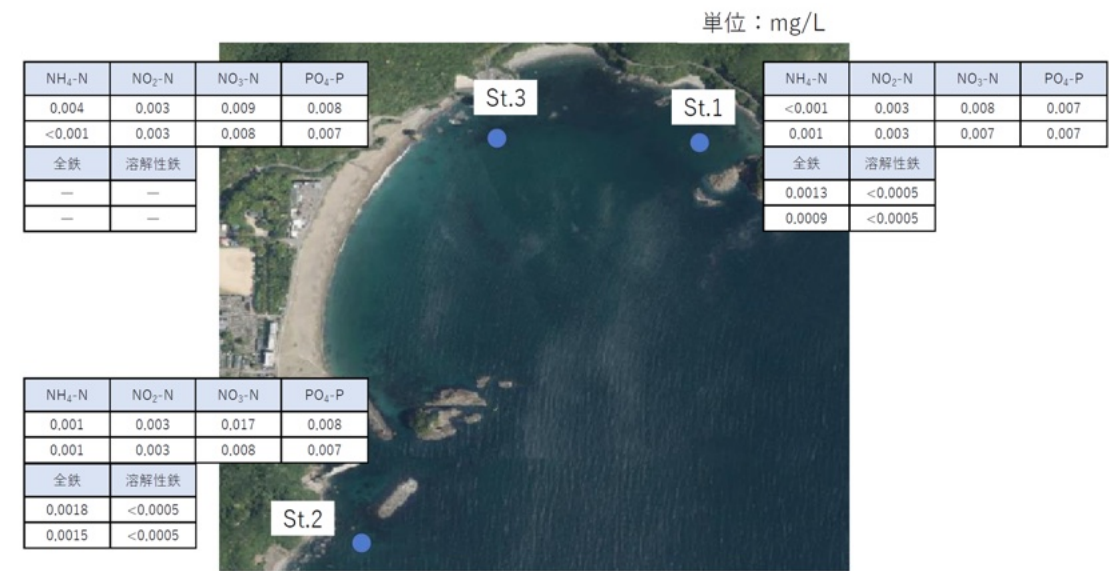


表 1 海洋水質調査結果とレッドフィールド比(C：N：P：Fe=106：16：1：0.005（モル）)の比較結果

調査点	測定層	水深 (m)	NH ₄ -N		NO ₂ -N		NO ₃ -N		PO ₄ -P		全鉄		溶解性鉄	
	(m)		(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)
st.1	表層	4.1	<0.001	<0.07	0.003	0.20	0.008	0.60	0.007	0.22	0.0013	0.024	<0.0005	<0.009
	下層		0.001	0.08	0.003	0.18	0.007	0.47	0.007	0.23	0.0009	0.016	<0.0005	<0.009
st.2	表層	4.3	0.001	0.09	0.003	0.19	0.017	1.21	0.008	0.27	0.0018	0.033	<0.0005	<0.009
	下層		0.001	0.09	0.003	0.20	0.008	0.57	0.007	0.24	0.0015	0.026	<0.0005	<0.009
st.3	表層	5.7	0.004	0.27	0.003	0.21	0.009	0.62	0.008	0.25	—	—	—	—
	下層		<0.001	<0.07	0.003	0.20	0.008	0.57	0.007	0.23	—	—	—	—
報告下限値		—	0.001	0.07	0.001	0.07	0.001	0.07	0.002	0.06	0.0005	0.009	0.0005	0.009
有効桁数		—	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
丸め		—	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入
分析方法など		—	規格42.6		規格43.1.3		規格43.2.6		規格46.1.4		規格57.4		規格57.4	
st.1 C：N：P：Fe モル比換算		N=NH4-N+NO2-N+NO3-N P=1 Fe=全鉄					N= 3.95		P= 1.00		Fe= 0.11			
レッドデータフィールド比							16		1		0.005			

1. 藻場再生材の原料

- ・ 主原料は、肥料成分や有機アミノ酸源、鉄のキレート効果を促す腐植酸を含むシイタケ熟成廃菌床を、肥料成分（カルシウム、マグネシウム、リン）として、美波町で収穫されたウニ殻を配合。
- ・ ケイ酸塩、カルシウム源として水質浄化材であるセラクリーン（太平洋セメント社製）を、有機鉄供給体として、鉄力あぐり（愛知製鋼社製）を配合。
- ・ 固化材として簡易的な三和土剤（ハネダ化学社製）を用いた。
- ・ 廃菌床は、徳島県の特産品であるシイタケの使用済み培地のため、地元未利用資源の有効活用が期待できる。
- ・ 藻場再生材の成分分析結果を表2、写真4に示す。

表 2 藻場再生材の混合物の組成

混合物		
原料時		製品あたり
材料名	重量 (g)	重量 (g)
シイタケ廃菌床	2,000.0	108.2
ウニ殻粉砕物	10.0	0.5
セラクリーン	10.0	0.5
鉄力あぐり	10.0	0.5
水	2,774.0	150.1

表3 藻場再生材の成分分析結果

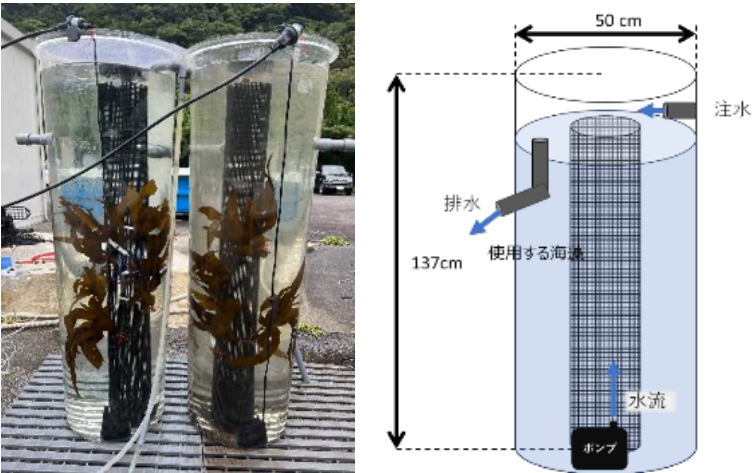
項目名	分析値	単位	検査方法
亜鉛	66	mg/kg	肥料等試験法による
水溶性鉄	15	mg/kg	〃
可溶性マンガン	0.05	wt%	〃
加里(K ₂ O)	0.28	wt%	〃
有機炭素	12	wt%	〃
炭素窒素比	14	wt%	〃
水溶性モリブデン	< 0.01	wt%	〃
水溶性コバルト	< 0.01	wt%	〃
腐植酸	16	wt%	〃
窒素含有量	160	mg/L	JIS K0102
磷含有量	120	mg/L	〃

2. 藻場再生材の効能

- ・ 藻場再生材の効能検証のため評価試験を行った。
- ・ 評価試験は実験装置※2 内で2週間程度カジメを生育させ、その成長変化を評価する方法で実施した。
- ・ 評価にあたり、再生材を入れた試験区と再生材を入れない対照区を設けた。
- ・ 評価試験の結果、対照区では重量が減少し、試験区では重量が維持された。

※2 うみの株式会社が特許を保有する試験法（特許7276772）を一部改変

写真1 試験風景（再生材を入れる試験区、入れない対照区）



180L容量の円柱状ポリカーボネート水槽
試験法（特許7276772）を一部改変し実施

図2 カジメの平均全長の推移

個体番号	全長(cm)			
	0週目	1週目	2週目	
試験区 1	36.5	35.5	36.5	
2	36	36	20	
試験区 3	35	34	26	
4	32.8	33	23	
5	29.5	30.5	20	
6	45	46	30	
試験区 7	38.4	37	24.5	
8	28.5	28	24	
試験区 9	37.5	39	26	
試験区 10	38.5	37.5	24	

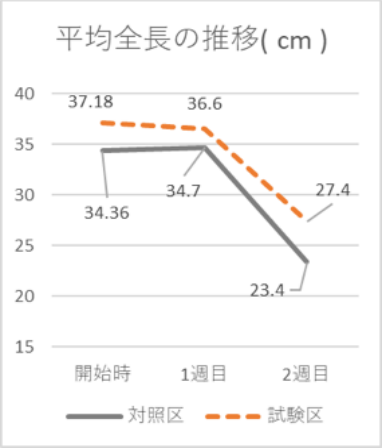
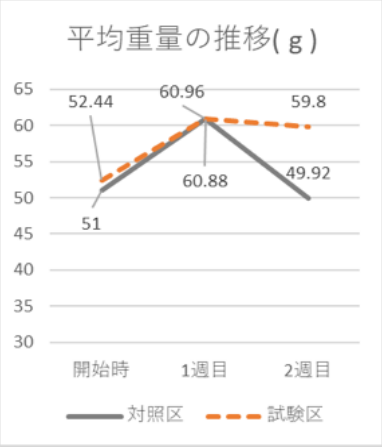


図3 カジメの平均重量の推移

個体番号	重量(g)			
	0週目	1週目	2週目	
試験区 1	42.8	50.6	51	
2	48.8	60.2	42.8	
試験区 3	32.8	34	38	
4	42	49.4	36.8	
5	57.6	70.2	63.2	
6	58.4	70.2	63	
試験区 7	84.6	94.6	98.8	
8	48.2	54.4	43.8	
試験区 9	61.6	75.2	69.8	
試験区 10	40.4	50.4	41.4	



3. 藻場再生材の安全性と海洋への設置

- ・ 本活動に先立ち「循環型藻場造成「積丹方式」によるウニ増殖サイクルとブルーカーボン創出プロジェクト」の実施者にヒアリングし、活動の参考とした。
⇒廃棄処分していたウニ殻を天然ゴムで固めた「ウニ殻肥料」制作にあたり「一般廃棄物再生利用業指定証」を取得していることを参考とした。
- ・ 徳島県危機管理環境部に相談し、シイタケ廃菌床の再利用および藻場再生材の海底設置の際に必要な許認可について確認した。
⇒シイタケ廃菌床が、事業系一般廃棄物の場合は市町村の許可、産業廃棄物の場合は県の許可が必要。
⇒海底設置には県の水産振興課、漁協、海上保安庁との調整が必要。
- ・ シイタケ廃菌床は農業では事業系一般廃棄物に該当するため、美波町の一般廃棄物再生利用業指定証を取得した。 写真2
⇒一般廃棄物の積込み、積下ろし、中間加工処理内容と場所について申請。
- ・ 徳島海上保安部交通課に相談し、再生材の海底設置の際に必要な許認可について確認した。
⇒対象地（白い燈台～えびす洞付近）は特定港内に該当。港則法における「特定港内における工事・作業・行事の許可」に係る申請（第9号様式）が必要。
⇒藻場再生材を設置することは、海上保安庁の管轄である「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律」には該当しない。
⇒ただし、土壌汚濁防止法等における環境基準値以下の材料を用いることをエビデンスとして別添資料として添付すること。
- ・ 海底設置にあたり、藻場再生材の安全性確認のため成分分析を行った。写真2および「有害物質の分析結果および基準値比較結果」シート参照
⇒成分分析の結果、開発した藻場再生材から**基準量を超えた汚染物質は検出されなかった**。 写真2および「有害物質の分析結果および基準値比較結果」シート参照
- ・ **海上保安庁に作業許可申請書**と成分分析結果を提出し**許可を受けた**。 写真3,4
- ・ 徳島県水産振興課からは特に指摘等は無し。現状は試験研究という位置づけのため。
- ・ 漁協とは調整済み。藻藍部は地元漁業組合が構成メンバーである。

写真2 一般廃棄物再生利用業指定証

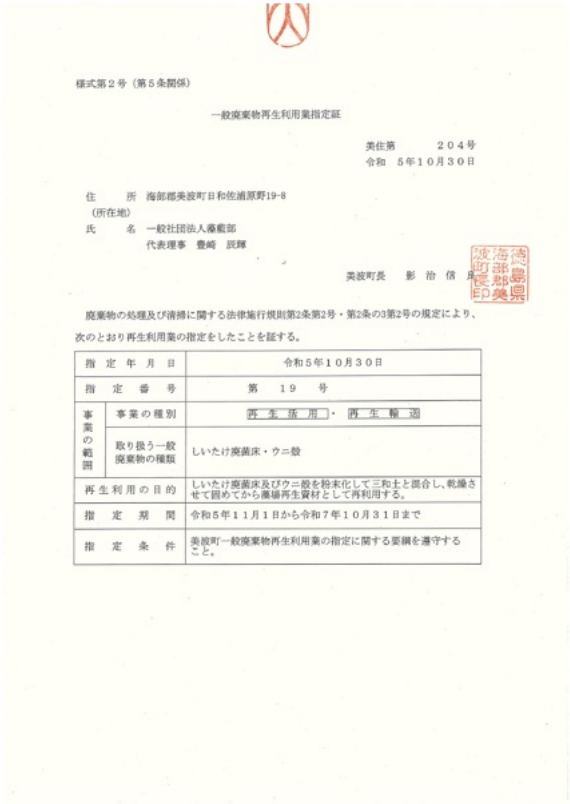


写真3 作業許可申請書

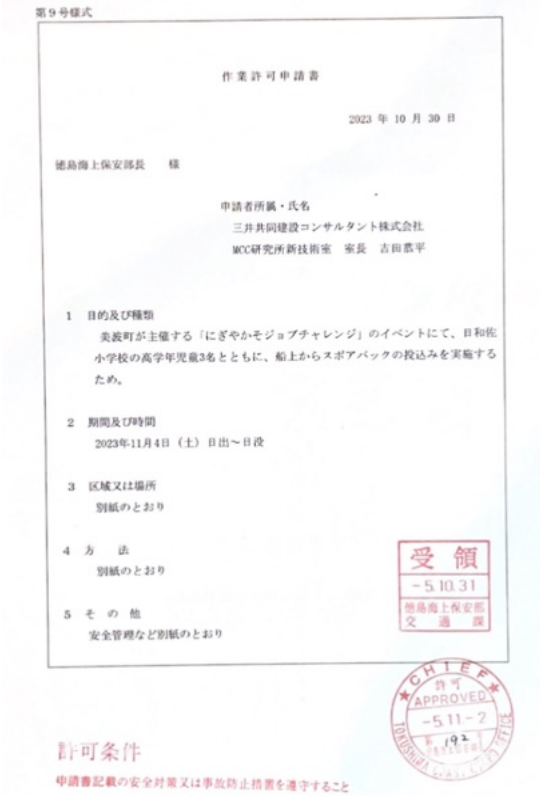


写真4 藻場再生材の成分分析結果



計 量 証 明 書

第 0704 号

三井共同建設コンサルタント株式会社 様

報告	2023 年 05 月 31 日
受付	2023 年 05 月 12 日

下記の通り御報告申し上げます。

検体 No.	3-23-05-105-00
採取日時	**月**日 :
採取場所	*****
採取者	依頼者 (当社受取)
試料種別	藻場増殖資材 溶出試験

計量証明登録番号 濃度第529号
株式会社 環境総合研究所
計量管理者 田中正昭
埼玉県越市鶴田592番地3
TEL 049 (225) 7204
FAX 049 (225) 7346

項目名	分析値	単位	検査方法
カドミウム	0.0007	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
全シアン	< 0.10	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
有機りん化合物	< 0.1	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
鉛	0.007	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
六価クロム	< 0.005	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
砒素	0.010	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
総水銀	< 0.0005	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
アルキル水銀	< 0.0005	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
ポリ塩化ビニル	< 0.0005	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
銅	0.84	mg/L	JIS K0102 - 52.5
ジクロロメタン	< 0.002	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
四塩化炭素	< 0.0002	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
クロロエチレン	< 0.0002	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
1,2-ジクロロエタン	< 0.0004	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
1,1-ジクロロエチレン	< 0.01	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
1,2-ジクロロベンゼン	< 0.004	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
1,1,1-トリクロロエタン	< 0.10	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
1,1,1,2-トリクロロエタン	< 0.0006	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
トリクロロエチレン	< 0.001	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
テトラクロロエチレン	< 0.001	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
1,3-ジクロロプロペン	< 0.0002	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
ベンゼン	< 0.001	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
セレン	0.001	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
ふっ素	3.0	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
ほう素	3.7	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
1,4-ジオキサン	< 0.005	mg/L	環境庁告示第46号(平成3年)
水素化濃度(23.9℃)	6.7	pH	JIS K0102 - 12.1
n-ヘキサン抽出物質(動植物油)	< 2.5	mg/L	下式試験方法(2012年) 2-1-40付
「腸菌菌数」	6.6 × 10 ³	CFU/100mL	環境庁告示第59号(昭和46年)付表10
フェノール	< 0.001	mg/L	環境庁告示第331105001号付表1
アンモニア性窒素	24	mg/L	JIS K0102 - 42.2
亜鉛含有量	0.35	mg/L	JIS K0102 - 53.4

備考：「 」の項目は、計量法第107条の計量対象外です。

計 量 証 明 書

第 0704 号

三井共同建設コンサルタント株式会社 様

報告	2023 年 05 月 31 日
受付	2023 年 05 月 12 日

下記の通り御報告申し上げます。

検体 No.	3-23-05-105-00
採取日時	**月**日 :
採取場所	*****
採取者	依頼者(当社受取)
試料種別	藻類増殖資材 溶出試験

計量証明登録番号 測定第529号
株式会社 環境総合研究所
計量管理者 田中正昭
埼玉県川越市鶴田 592番地3
TEL 049 (225) 7264
FAX 049 (225) 7346

[illegible]

備考：「 」の項目は、計量法第107条の計量対象外です。

第 0693 号

1/1

三井共同建設コンサルタント株式会社 様

報告	2023 年 05 月 30 日
受付	2023 年 05 月 12 日

下記の通り御報告申し上げます。

検体 No.	4-23-05-106-00
採取日時	**月**日
採取場所	*****
採取者	依頼者 (当社受取)
試料種別	藻場増殖資材 含有試験

計量管理 登録番号 測定第529号
株式会社 環境総合研究所
計量管理者 田中正昭
埼玉県川口市鶴田592番地3
TEL 049 (225) 7204
FAX 049 (225) 7346

[illegible]

備考：

アイゴの水揚げ最低価格保証補助 美波町内漁業者向けガイドライン

1. 目的

- ・藻場を維持再生させるとともに磯根資源を回復させる磯焼け対策を実施いたします。
- ・特に美波町内の藻場への食圧が高い「アイゴ」を漁獲し、食品活用することにおける事業に関して、補助を行い、水産業ならびに地域経済を活性化させることを目的としています。

アイゴを駆除ではなく、食品として展開！

- ・他地域では、アイゴやブダイ等の磯焼けの原因とされる魚種をするために、駆除する補助金交付が行われている事例が増えてきています。
- ・美波町では、昔からアイゴを食べてきた徳島県南の文化を活かし、食品に活用することでアイゴの流通価値を高める全国初の挑戦に、みなさまもお力添えをよろしくお願いいたします。

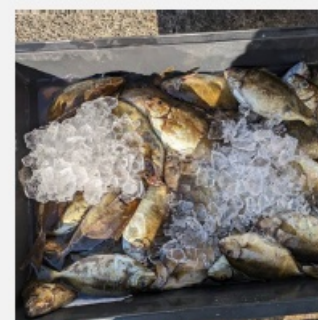
アイゴのフィッシュカツ
(にいや蒲鉾店)アイゴの一夜干し
(濱宮海産)アイゴの生ハム
(ラトリエあべ)アイゴの燻製
(徳島スモーク)

2. 補助のルール

- ・最低価格保証補助については、300円/kg = 出荷額 + 補助金とする。
- ・食害魚漁獲に伴う漁具開発・製作は1漁協当たり最大10万円とする。

目方300 g 以上、船上からの氷漬けを必須とする。

- ・最低価格保証は、目方を300 g 以上、基本的には定置網に入網し、船上から活魚形態と同等の取扱いがされたアイゴを対象とします。
- ・ただし、目方が300 g 以下や鮮度管理が劣るものでも、一夜干しや練物の原料等として従来どおり売買が成立した場合は補助対象とします。
- ・漁協は取引結果が分かる証憑を必ず残しておいてください。今回の補助制度は、食品利用として出荷が成立していれば補助いたします。
- ・現在、目方の小さいかたり鮮度が悪いアイゴについて、飼料や肥料の原料としての大量購入の販路調整をしております。事業化が見えた際は本要綱を見直し、別途みなさまにご説明にあがります。

◎定置網での水揚げ
(由岐漁港)◎県釣り連盟の大会釣果
(鞆浦漁港)×刺網での水揚げ
(鞆浦漁港)

3. 連絡先

美波町役場産業振興課 水産担当 (鍛冶課長補佐)

〒779-2305 徳島県海部郡美波町奥河内字本村18-1

TEL 0884-77-3617 FAX 0884-77-1666

水質分析結果表

業務名： 日和佐藻場調査

採取日： 2023年1月26日

調査点	測定層	水深 (m)	NH ₄ -N		NO ₂ -N		NO ₃ -N		PO ₄ -P		全鉄		溶解性鉄	
	(m)		(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)	(mg/L)	(μmol/L)
st.1	表層	4.1	<0.001	<0.07	0.003	0.20	0.008	0.60	0.007	0.22	0.0013	0.024	<0.0005	<0.009
	下層		0.001	0.08	0.003	0.18	0.007	0.47	0.007	0.23	0.0009	0.016	<0.0005	<0.009
st.2	表層	4.3	0.001	0.09	0.003	0.19	0.017	1.21	0.008	0.27	0.0018	0.033	<0.0005	<0.009
	下層		0.001	0.09	0.003	0.20	0.008	0.57	0.007	0.24	0.0015	0.026	<0.0005	<0.009
st.3	表層	5.7	0.004	0.27	0.003	0.21	0.009	0.62	0.008	0.25	—	—	—	—
	下層		<0.001	<0.07	0.003	0.20	0.008	0.57	0.007	0.23	—	—	—	—
報告下限値		—	0.001	0.07	0.001	0.07	0.001	0.07	0.002	0.06	0.0005	0.009	0.0005	0.009
有効桁数		—	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
丸め		—	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入	四捨五入
分析方法など		—	規格42.6		規格43.1.3		規格43.2.6		規格46.1.4		規格57.4		規格57.4	
st.1 C : N : P : Fe モル比換算		N=NH4-N+NO2-N+NO3-N P=1 Fe=全鉄					N= 3.95		P= 1.00		Fe= 0.11			
レッドデータフィールド比							16		1		0.005			